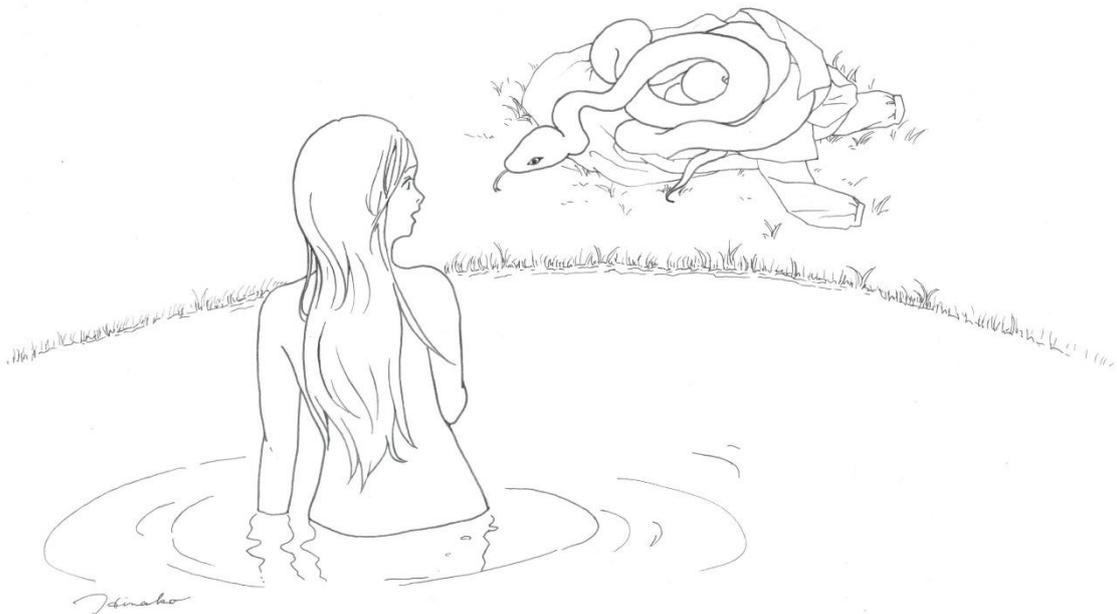


蛇の女王エグレ

(リトアニアの昔話)



むかしむかし、おじいさんとおばあさんがいました。おじいさんとおばあさんには 12 人の息子と 3 人の娘がいました。15 人の兄弟の中で一番若かったのが、妹のエグレでした。

ある日のことです。3 人の姉妹は、湖で泳いでいました。エグレは脱いだ服を湖のそばに置いていましたが、湖から上がると、その服のそばに蛇がいることに気がつきました。戸惑っているエグレに、蛇が人間の言葉で話しました。

「俺と結婚するなら、服を返してやる」

エグレは、蛇となんか結婚したくありません。しかし、その恐ろしい蛇を見て、
どうすることもできなかったので、蛇の言うことを聞きました。



3日後、何千匹もの蛇がエグレの家にやってきました。エグレを連れて行くためです。エグレの家族は、エグレを蛇たちに渡すつもりはありません。そこで、家族は、エグレの代わりに鶏や羊を蛇に渡して、蛇をだまそうとしました。

蛇たちは、鶏や羊をエグレだと思って持って帰りましたが、その様子を見ていたカッコウが蛇たちに本当のことを言ってしまいました。蛇たちは、たちまちエグレの家に戻ってきました。

「お前たちは、だましたな！」

と、蛇たちが言いました。エグレの家族はもう何もできなくて、エグレを蛇たちに渡してしまいました。

エグレは蛇に連れられて、海までやってきました。エグレはずっと泣いていました。しかし、そこでエグレを待っていたものを見て、エグレは驚きました。それは、恐ろしい蛇ではなくて、立派な男の人だったのです。彼は、蛇の王様のジルヴィナスです。エグレの服に隠れていた恐ろしい蛇は、今は人間の姿に形を変えていました。

ジルヴィナスは、エグレを海の中のお城に連れていきました。ジルヴィナスはとても優しくかったので、エグレは少しずつジルヴィナスに心を許していきました。やがて二人は、盛大な結婚式をしました。そして、幸せに暮らしました。

それから9年経ちました。

エグレとジルヴィナスの間には、3人の息子と1人の娘が生まれました。3人の息子の名前は、ウオシス、ベルジャス、アージュラスで、一番下の娘はドレブレです。

ある日、子どもたちがエグレに言いました。

「お母さんの家族はどこにいるの？会ってみたいよ」

ジルヴィナスと暮らすようになってから、エグレは自分の家族のことをあまり思い出さなくなっていました。しかし、子どもたちに両親や兄弟のことを聞か

れて、懐かしくなりました。そして、エグレは家族に会いたくなくなりました。

「両親や兄弟に会いたいの」

と、エグレはジルヴィナスに言いましたが、ジルヴィナスはそれを許してくれませんでした。しかし、何度もエグレが頼むので、ジルヴィナスは3つの条件を出すことにしました。



「この3つの条件を成功させることができれば、家族に会いに行くことを許そう。1つは無限の糸を編むこと、2つ目は鉄の靴を履くこと、そして3つ目は道具を使わずにパンを焼くことだ」と、ジルヴィナスは言いました。

この3つの条件は、どれも無理なことでした。自分にはできないと思って、エグレは近くに住んでいた魔女に助けを求めました。すると魔女は、あっという間に3つの条件を叶えました。

エグレは子どもたちといっしょに海の中のお城を出て、エグレの故郷に向かいました。

「お父さん、お母さん、ただいま」

エグレは家に着くと、ドアを開けて言いました。

「エグレ…エグレじゃないか。信じられない！」

エグレの家族は、エグレが帰ってきたことをとても喜びました。しかし、喜びも束の間です。エグレがまた数日後にはジルヴィナスのところへ帰ることを知ると、がっかりしました。どうしてもエグレをジルヴィナスのところに帰したくない家族は、エグレが帰れないようにするために、ジルヴィナスを殺そうと考えました。

海のお城を出るときに、エグレと子どもたちはジルヴィナスから海のお城に戻るための呪文を聞いていました。その呪文を海岸で唱えると、ジルヴィナスが迎えに来るということでした。

そのことを知ったエグレの父親は、エグレに知られないように、エグレの子どもたちから呪文を聞き出そうとしました。

「かわいい孫たちや、おじいちゃんに呪文を覚えてくれないか」

エグレの父親は、やさしく言いました。しかし、子どもたちは何も言いませんでした。

「おい、黙ってないで、呪文を教えろ。呪文を言わないと、怖いことになるぞ」

エグレの父親は、だんだん怒ってきました。子どもたちは呪文を教えないようにがんばりましたが、一番下の女の子のドレブレは怖くなって、とうとう呪文を覚えてしまいました。

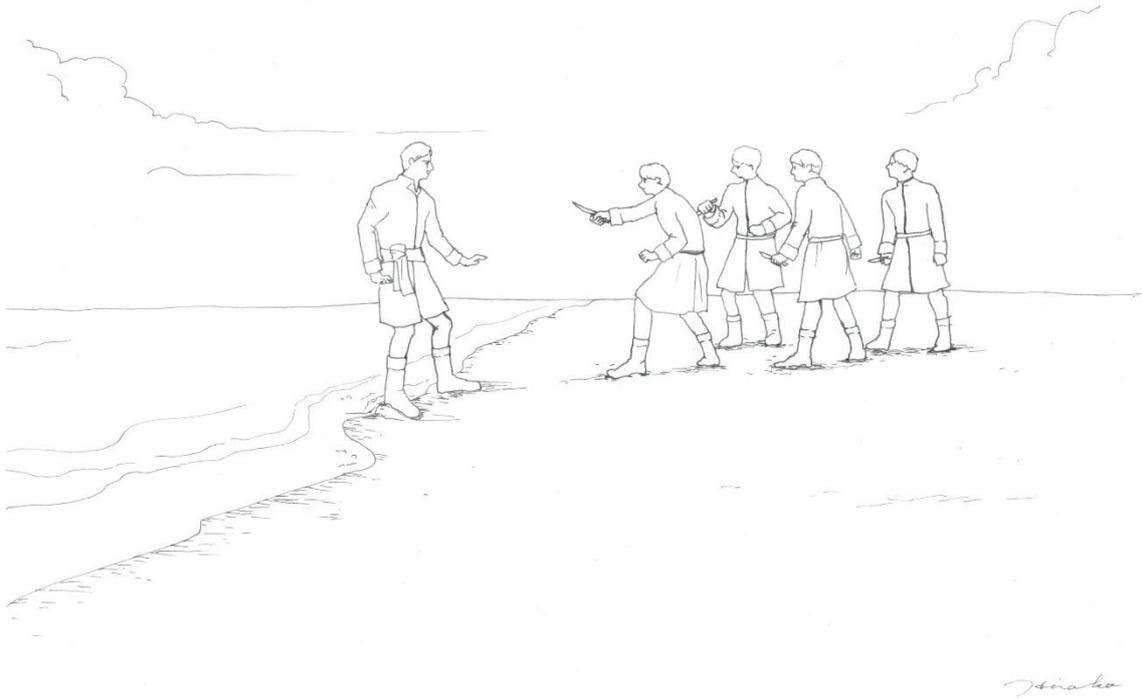
呪文を知ったエグレの12人の兄弟たちは、すぐに海岸へ行きました。みんな手にはナイフを持っています。海岸に着くと、彼らは海に向かって叫びました。

ジルヴィナス、ジルヴィナス

生きていれば、ミルクの泡の波となって海に来ておくれ

死んでいれば、血の泡となって私のところに来ておくれ

すると、海が鳴り、ミルクのような泡が押し寄せて、ジルヴィナスが姿を現しました。



ジルヴィナスの姿を見ると、エグレの12人の兄弟たちは、いっせいにジルヴィナスに襲いかかりました。ジルヴィナスは、何もできずに殺されてしまいました。

12人の兄弟たちは家に帰りましたが、エグレには何も言いませんでした。

それから9日経ちました。エグレと子どもたちが帰る日です。エグレは両親や兄弟に別れを告げて、海のお城に続く海岸へ来ました。エグレは海に向かって叫びました。

ジルヴィナス、ジルヴィナス

生きていれば、ミルクの泡の波となって海に来ておくれ

死んでいれば、血の泡となって私のところに来ておくれ

すると、海が鳴り、血のような真っ赤な波がエグレの方に流れてきました。エグレは驚き、そして、ジルヴィナスの身に何かあったのだと思いました。

そのとき、どこからかジルヴィナスの声が聞こえました。

「私はあなたの12人の兄弟に殺されてしまった。最愛の娘ドレブレが呪文を教えてしまったから……」

それを聞いたエグレは、大声を出して泣きました。エグレはジルヴィナスのことをすっかり愛していたのです。

「なんてことをしたの！」

エグレは、子どもたちに言いました。そして、泣きながら子どもたちに呪いをかけてしまいました。その呪いで3人の息子たちは、トネリコ、白樺、樅の木に、娘のドレブレはアスペンの木になってしまいました。

そして最後にエグレは、自分をトウヒの木に変えてしまったということです。

<解説>

リトアニアには、蛇が出てくる昔話がたくさんあります。また、おじいさんとおばあさんの暮らしについての物語や、12人の兄弟や3人の兄弟が出てくる話、

動物についての話がたくさんあります。

この昔話に出てくるエグレと子どもたちの名前は、リトアニア語の木の名前と同じです。例えば、エグレはリトアニア語で「トウヒの木」という意味があります。息子たちの名前のウオシスは「トネリコ (ash tree)」、ベルジャスは「白樺」(birch tree)、アージュラスは「樅 (oak tree)」、そして娘の名前のドレブレは「アスペン (aspen tree)」の木です。3人の息子たちの名前のトネリコ、白樺、樅は、リトアニアでは3つの良質な木とされています。娘の名前のアスペンの木は、「いつも風で震えている木」と言われています。父を裏切った娘の名前です。

(2947 字)

(2020.5 Written by GELAZINYTE UGNE, VITKAUSKAS ALMANTAS,
RADZEVICIUS KAROLIS)

(Edited by Toru YOSHIKAWA)

(All pictures are drawn by Hinako FUJIMURA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.